

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生涯に渡って学び続けられる学力、異なる思いを理解し励ましあえるコミュニケーション力、困難に怯まず着実に目標に向かった進める精神力を重視し、総合学科5系列を柱にして、地域に根ざした有為な社会人を育成する。
指示されたことに素直に従い、要求された課題を何とか仕上げるという入学時の段階から、気持ちを切り替え集中し、先を読み、声を掛け合って、共に学び共に遣り上げるという段階（志を自覚した段階）へ到達し、目標とする力を身に付けて卒業できるよう、共生教育と進学を重視し、学年ごとの指標を明確にして、担任団を軸とし、分掌が支え、教科が学習の指導を積極的に多様に展開する。また、学校協議会、PTA などを通して、保護者や地域の理解、協力を得て、教育活動のPDCA サイクルの透明性を確保する。

2 中期的目標

1 生きる力の育成 (1) 1年の指標は、(志の土台を固める) ①基本的な生活習慣の定着。②規律の遵守③学校、学級への帰属意識の涵養。 ⑤部活への積極的参加と集中。 (2) 2年の指標は、(志をじっくり鍛える) あいさつと声かけ励行。選択授業での集中、規律の確立。ロッカー、持ち物の管理。行事の短期集中、1年への指導。 部活での集中、1年への声かけ。定期考査時の自主学習会、1年への指導。 重点教科の予習復習家庭学習2時間 (3) 3年の指標は、(志を大きく構え、自覚する) 進路目標を明確にし目標達成に向けて日々の授業への集中した取組姿勢と行事や部活動でのリーダーシップと自学自習の学習習慣の確立。選択授業での集中、規律の推進。 行事の短期集中とリーダーシップ。部活引退後の自主学習会 入試科目の演習家庭学習3時間 (4) 共生教育推進 生徒が、共に学び、共に育つという一体感の共有
2 組織的な学校力の構築 (1) 担任団、分掌・共生推進委員会、教科の分担と連携 ア 担任団が指導の前面に立ち、分掌・共生推進委員会が支えて、教科が学習の具体的な指示を与えて実現する。 イ 担任団の指導により、生徒が声を掛け合って学ぶ環境を集団で整え、教科担当が学習指導を行う。 *机、持ち物の整理、黒板等の準備 *気持ちの切り替え集中を図るための起立、礼等の号令 *集中できていない生徒への注意、声かけ、励ましあい (2) 担任団による指導体制の確立 ア 学年室を活用した指導体制をとる。 *声を掛け合って集団行動、集中と切り替え、先導と最終点検 (3) 分掌・共生推進委員会による支援 ア ICT活用による各種資料提示（教務、生指、・共生推進委員会） *単位不認定者5割減 *年間遅刻1000件以内 イ 系統的な学力調査の実施 *各年とも大学進学希望者全国平均を上回る生徒が半数以上 *希望する進学、就職の実現を8割以上 ウ 行事の適正配置と生徒の自主運営力の向上 *音楽祭、修学旅行の位置づけと時期の決定 *生徒会、部活動のリーダーシップ向上 (4) 教科による一貫した計画的系統的指導 ア 生徒にわかりやすい一貫した指導スタイルの確立 イ 授業における切り替えと集中、声掛けと集団行動を推進 *生徒による授業環境整備 *授業満足度の向上 (5) 部活動の活性化と安全指導 ア AED の活用と救急法の習得 イ 危険個所の点検や騒音対策 (6) 首席を軸としたPDCAの確立 ア 年度替わり時の業務、学校行事のスムーズな運営 イ 整合性のとれた各年・分掌の運営 *卒業式、入学式、宿泊オリエンテーション (7)地域連携の推進、地域に根差した人材の育成 ア 豊中市社会教育部門との連携 イ 中学校との連携と情報発信
3 ICT活用の推進 (1)「校務処理システム」の活用を推進 (2) ICT活用による各種資料共有（教務、生指、・共生推進委員会） (3) 情報処理委員会の機能整理

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 25 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
【学習指導等】 ・本校の教育課程に関する項目について、生徒・保護者・教員ともに 80% 以上の高い肯定率を維持しており、総合学科としての学校経営は軌道に乗っている。 ・中期的目標「生徒にわかりやすい一貫した指導スタイルの確立」につい	第 1 回 (6/25) ○H25 年度学校経営計画について ・総合学科高等学校と共生推進教室設置校として、順調な学校経営であることが認められる。評価指標を達成できなかった項目があるので、めざす学校像の達成に向けて努力を重ねられたい。

府立千里青雲高等学校

て、生徒の授業理解の肯定率が62%であるが、授業満足度の肯定率は43%である。これらは学年進捗とともに高くなるため、生徒への指導効果が認められる。教員の授業改善努力への肯定率は42%と低いため、より一層、授業改善のための取組みを進めなければならない。 ・共生教育推進についての肯定率は生徒72%、保護者86%、教員87%と高い肯定率を維持しており、共生推進教室設置校としての学校経営は軌道に乗っている。 【生徒指導等】 ・生活指導に関する項目について、保護者71%と高水準を維持しており、その姿勢は学校評議会でも高く評価されているが、生徒は昨年より5%向上したが42%と低い。また生徒会活動への関心についても肯定率が24%と低い。生徒の自主性と自覚を促す努力が必要である。 ・進路指導に関する項目については、生徒・保護者・教員ともに肯定率は高く、本校が一体となった指導や取組みは成功している。 【学校運営】 ・研修・研究成果の共有の機会についての肯定率が36%と低い。校内の教員研修等の活性化を図りたい。 ・校長のリーダーシップについての肯定率84%、教職員の意見の反映と会議等の有効性についての肯定率は概ね75%と高い。引き続き校長のリーダーシップのもと、教職員の資質向上を図り、円滑な学校運営と教育力の向上をめざしたい。	○生活指導について ・本校生の登校態度は良く、引き続き近隣小・中学生の良いモデルとなるように努力を重ねられたい。 ○進路指導について ・学校全体の取組みに加え、教員有志が生徒の自己実現のために行う授業外の講習等の取組みが成果を上げている。引き続き取組みを続けられたい。 第2回（11/13） ○学習指導について ・授業外の講習等について、経験年数の少ない教員が率先して取り組み、経験を積んだ教員と共に行うなど、生徒にとってよい教員集団が形成され、成果を上げている。 ○共生推進教室について ・共生推進教室の生徒と総合学科の生徒との関わりの中で互いにより教育効果が得られている。特にクラブ活動では共生推進教室2年生において個人成績が伸びるなど、よい成果を上げている。 ○登下校時の交通安全について ・自転車通学について、時折危険な状況も見られる。交通安全教育に留意していただきたい。登下校時の校外指導において、地域住民の皆さまにご理解いただけるよう留意していただきたい。 第3回（3/20） ○学校教育自己診断の評価について ・校舎の老朽化など現状の学校の努力で解決できない部分があることを保護者に知らせるべきである。 ・教員の生徒への対応やHRでの活動において改善すべきところを明確にすると共にしっかりと対応すべきである。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
生きる力の育成	短期集中、時間内集合、	各年の担任団の意思一致と教職員の共通理解 生徒保護者への周知、徹底	全校集合10分以内	集会が行なわれる第一体育館は3学年が一度に移動し集合することが構造上困難であるが、生徒への指示を適切に行い10分以内の集合ができています。(○)
	各年の指標のうちの、 (1) 1年の指標は、 高校での生活習慣確立（志の土台を固める）	宿泊ガイダンス研修での徹底	宿泊研修での 切替と集中、時間内集合、消灯の9割実現	研修内容の固定化・充実ができた。携帯電話の持込禁止。結果、消灯後の生徒指導なし。宿泊研修後の学校生活において切替・時間内集合ができるなど、宿泊研修は効果をあげている。(○)
	(2) 2年の指標は、 中軸学年としての高校生活の確立（志をじっくり鍛える）	各学年とも年度初めと定期考査後のLHRで指導 教室移動時等最終確認等の徹底 下足ロッカーの配置見直し、各年でのロッカー管理課題を抱える生徒と頑張る生徒への集団対応	(1) あいさつ7割、整理整頓7割 部活参加8割 予習復習全員1時間以上 定期考査時2時間以上 5割 遅刻500件以下	(1) 登校時、9割の生徒があいさつする。それ以外の場面でも多くの生徒ができています (○) 部活参加は11月調査では81%（同学年昨年比+3%）。女子の参加率が低下傾向にあるため、対策を講じたい。(○) 予習復習は9月調査では平日39分・休日54分と目標を下回っていたため、学期末考査時には、成績不振者を中心に2時間以上の学習を行った。(△)
	(3) 3年の指標は、 卒業学年としての高校生活の確立（志を大きく構え、自覚する）	(2) 2年の指標は、 あいさつと声かけ励行。選択授業での集中、規律の確立。ロッカー、持ち物の管理。 重点教科の予習復習2時間。定期考査時の自主学習2時間半。	(2) あいさつ7割、整理整頓7割 部活参加8割 予習復習全員1時間半以上 定期考査時2時間半以上5割 遅刻500件以下	遅刻は12月末現在402件であり、目標達成はできない見込み。ほとんどの生徒は遅刻しないが特定の生徒の遅刻が多く、家庭との連携による指導を強化したい。(△)
	(4) 共生教育推進 生徒が声を掛け合い集団で学ぶ環境を整える	(3) 3年の指標は、 選択授業での集中、規律の推進。行事短期集中とリーダーシップ。部活での集中とリーダーシップ。 部活引退後の土曜日の自習室自主学習。入試科目の演習家庭学習3時間	(3) あいさつ7割、整理整頓7割 部活参加8割 自習室活用常時20人以上 入試科目の演習家庭学習3時間以上進学希望者の5割 遅刻500件以下	(2) 登校時、9割の生徒があいさつする。それ以外の場面でも多くの生徒ができています (○) 部活参加は11月調査では1年次より-6%の72%（同学年昨年比-2%）。次年度については現1年の現状を維持するとともに、学業と部活動の両立をめざしたい。(△) 予習復習時間は9月調査では平日52分、休日66分と目標を下回った。次年度は受験の年でもあり家庭学習と自学自習の徹底をめざす。(△)
		(4) 生徒会の活動やLHR、懇談等の担任からの指導により、生徒の自覚を高め、学級委員長等のリーダーシップと最終点検意識、気付いた者による声掛けとそれを受け入れる態度を育てる。	(4) 共に学んでよかった。80%	遅刻は12月末現在441件であり、目標達成はできない見込み。ほとんどの生徒は遅刻しないが一部の生徒の遅刻が多く、家庭との連携による指導を強化したい。(△)
				(3) 登校時、9割の生徒があいさつする。それ以外の場面でも多くの生徒ができています (○) 部活参加は5月調査では2年次より-2%の71%（同学年昨年比+2%）。(△) 予習復習時間は4月調査では平日62分、休日79分と目標を下回ったが、志望する進路実現に向けて、勉強時間は1、2年次より増えた。高い志を持つ生徒が夏休み以降、長時間勉強する人数が劇的に増加した。(△) 休日や夏休みなどに、学校の自習室を利用する生徒は平均15名程度。(△)
				遅刻は12月末現在441件であり、目標達成はできない見込み。ほとんどの生徒は遅刻しないが一部生徒の遅刻が多く、家庭との連携による指導を強化したい。(△)
				(4) 学校教育自己診断における学校の共生教育推進に対する肯定率は生徒72%（昨年比+6%）、保護者86%（昨年比+1%）と目標に届かなかったが、本年度より1年有志によるフレンドサークルが活動を始めるなど、共生教育の推進は進んでいる。(△)

府立千里青雲高等学校

組織的な学校力の構築	(1) 担任団、分掌・共生推進委員会、教科の分担と連携 (2) 担任団による指導体制の確立 (3) 分掌・共生推進委員会による支援 (4) 教科による一貫した計画的系統的指導 (5) 首席を軸としたPDCAの確立	(1) ア 担任団が指導の前面に立ち、分掌・共生推進委員会が支える。 イ 担任団の指導により、生徒が声を掛け合って学ぶ環境を集団で整える。 (2) ア 学年室を活用した指導体制をとる。 (3) ア ICT活用による各種資料提示（教務、生指、・共生推進委員会） イ 系統的な学力調査の実施 (4) ア 生徒にわかりやすい一貫した指導スタイルの確立 イ 授業における切り替えと集中、声掛けと集団行動を推進 (5) ア 年度替わり時の業務、学校行事のスムーズな運営 イ 整合性のとれた行事計画、各年・分掌の運営	(1) ア 年度末から年度初めの行事の円滑な執行 イ 授業の満足度80% (2) ア 1年、2年学年団で実施 (3) ア 単位不認定者5割減、年間遅刻1700件以内 イ 各年とも大学進学希望者全国平均超が半数以上、希望進路実現が8割以上 (4) ア 生徒による授業環境整備 イ 授業集中度自己採点80% (5) ア 卒業式、入学式、宿泊オリエンテーション、修学旅行等の計画的執行 イ PDCAの執行と音楽祭、修学旅行の設定	(1) ア 年度末から年度初めの行事については、責任分掌が企画立案し、担任団を中心に実施する体制が整っている。また、多くの教員の協力も得られ、円滑に実施されている。共生推進教室の生徒も、共生推進教室担当者の援助を得て、4月当初から徐々に慣れ親しんでいく様子が見て取れ、順調なスタートが切れている。 イ 授業アンケート第2回において77%。PDCAサイクルにより授業の工夫、授業改善を進めたい。(△) (2) ア 学年室を活用し、生徒の緊急事態・生徒指導等に迅速に対応できている。次年度も引き続き、悩み等を生徒が相談できるような雰囲気を作りたい。 (3) ア 3年の単位不認定者は長期欠席者を除き前年度ののべ34名からのべ30名と幾分減少した。これは担任団と各教科が連携した指導の結果である。 イ 遅刻は12月末現在705件であり、目標達成はできない見込み。ほとんどの生徒は遅刻しないが特定の生徒の遅刻が多く、家庭との連携による指導を強化したい。(△) イ 1年47.8%、2年18.7.5%、3年19.9%（英語データ）各年とも目標に達せず、2年での低下が顕著である。目標達成のための取組みは（4）アに記す。(△) 希望進路実現は12月末時点で3年の45.4%が達成。本来の進路希望実現のため来年度受験生が増加するが、学年末には評価指標を達成見込み。(○) (4) ア 「H24 がんばった学校支援事業」採択により進路資料室と記念室を自習室としても使用できるように整備した。本年度より、生徒からの希望により若手教員が中心となって企画運営する早朝・放課後の学習会を1・2年においても実施。3年の夏期勉強会や年末勉強会などが成果を上げている。(◎) イ 授業アンケート第2回において80%。(○) (5) ア “式”では厳粛かつ円滑な実施ができています。宿泊研修、修学旅行等での生徒問題行動なし。今後も担当学年・校務分掌を中心に全行的に取り組む。(○) イ 行事検討委員会を設置し、行事の実施や時期の見直しを行った。次年度に具体化を行う。(○)
	(1) ICT活用による各種資料共有 ア 各年、分掌の資料を電子データ化 イ 職員会議、企画委員会用の資料を電子データ化 (3) 情報処理委員会の機能整理	(1) ア サーバのフォルダ構造等の確立と周知 イ インターネットや校内ネットワークなどを活用して、必要な情報の交換・共有化を図る。 (3) 機器の管理、HP、授業評価・自己評価アンケート（担任外）、 「校務処理システム」担当（担任団から）	(1) 確立と周知 ア 年度末100% イ 活用度70% (3) 担当1名育成 担当3名育成	(1) ア 統合ICT導入により移行が遅れ、達成率60%。(△) イ 現在、分掌の資料は、校内ネットワーク上の共有されたハードディスク内に保存されており、校務分掌や校内委員会での活用度は40%である。統合ICT導入に伴い、データの移行と活用度の向上を図りたい。(△) (3) 担当者の育成については達成することができ、その結果、HPや電子メールによる情報発信を活性化することができた。今後はICTの活用を進めるため、担当者以外の資質向上を図りたい。(◎)